

刊夕日八廿月三

# 常磐每日新聞

定価 一冊五銭、一月五十五銭、半年三圓、一年六圓、外埠加郵費

廣告料 五號十二字一行情五銭、一行情一圓、二行情一圓二角、三行情一圓五角、四行情一圓八角、五行情二圓、六行情二圓二角、七行情二圓五角、八行情二圓八角、九行情三圓、十行情三圓二角、十一行情三圓五角、十二行情三圓八角

日曜祭日の翌日休刊

發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇

社址 常磐毎日新聞社 電話 六三〇

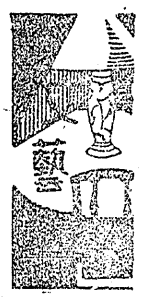
## 雨と人生 (一)

眞 繼 雲 山

論語には「仁者は山を愛し、智者は水を樂しむ」とあり、仁者は厚重にして遷らず、智者は風流して滞着なきを言ふたものである。世には尙ほ雪を賞する人あり、月を詠じる人あり、花にあこがる人、殊に多しこの輩、何とか稱すべけん斯く申す私は昔よりして雨を愛する、その愛惜、恐らく萬人を超えん、私はその静寂、その落ちつきを樂しむのである。

私は過ぐる日、親しき友と相たづさへて熱海に遊び遍時きながら貫二お宮の舊蹟を訪ふた、實なくして而かも殘影の名あること維摩の舊宅に似たりとやせん、さても白砂青松、長くつゞくと期したりし海岸は似ても似つかぬ峭料たる岩骨の荒磯でありしに聊か失望したるも、徳葉門下、風葉の「宮に似たうしろ姿や春の月」の碑刻に立ちてわづかに宿鬱の情懷を感した。

旗亭に倚り盃を汲むに、漂渺たる春の海は、油のごとく洋々として太平洋の涯に限り知らず、崖下の新緑は右方の小丘に連なりて奔潭を噴むところ、まこ



神聖なる農夫の一日を語る

佐藤 行雄

ひとしく雨といふても、沛然として盆を覆へすといふ土砂降りには感服せぬ、況んや篠衝く雨を浴びてビシヨ濡れとなりつゝ往還せねばならぬ如き腰辨生活はもと我が志願でなく、必定腰物に雨は禁辨であらうが、その一條を除いては雨は往くとして人生の詩逐ならざるはない。

鋤取つて耕なせり  
高き理想の黒肥土に  
何時しか朝湯立昇り  
重つた黒肥土金黃色となり  
て心もほほ笑まし  
脚下の水も清らかに  
喉をうるほす一もりは  
人生長く保つ水  
光輝やく朝露に  
高く陽昇る影うつり  
其の日の幸も祈なり  
陽は西山に側むきて  
今日の重りたる黒肥土は  
金波銀波と地にゆらぐ  
今日の勞をもこゝに終へ  
幸ありけふを嬉びて  
夕陽に向ひ祈り上ぐ  
又來る日には幸あれと  
時しも聞ゆ城山の  
鐘に想ひはのせられて  
自然の主を抱かれて  
遠く彼方の天國に  
想ひはたゞく自由なり  
青雲遠く起ちのぼり  
家路につかば懐しの  
夕飯の煙白々と  
我の歸りをば待ちもよう

看護婦急派の求めに應じます

平町南町  
平看護婦會  
電話三〇七番

特製 ヒナ人形

ヒナ道具賣出し

日頃おなじみの御得意様方へ謝恩の爲め特賣致します。どうぞ御一覽の程を御願致します。

平三丁目  
金太郎玩具店

謹告

今般田町火災の際に類焼致し候爲め左記に於て一層の親切丁寧を旨として營業致す可く候間何卒御引立を賜り度御願ひ申し上げます

◎假營業所  
平町田丸新デパート内  
根本時計店

平町田丸通電話六五六番

玉屋洋品店

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)  
大和田醫院

御入學御祝に……◇

正確本位のクローム腕時計をおすゝめ致します

學生特價  
奉仕品

5.50
6.00
6.50
7.00
7.50

蓄音器部  
春の朗らかな夜に家庭平和を斗る蓄音器を……  
四月新譜の内(コロンビヤ)  
軍事小唄(豐稜の唄 從軍記者の唄 鐵道歌 鐵道小唄)

平町五丁目(電話一九五)  
鐵道省用 金光堂時計店 蓄音器部

意用御の級進學入方様子お

靴。子帽生學

ヤルツ

〇四一電

ルセドンラ

總革製

七十八錢
九十錢
一圓卅錢
一圓廿錢
四圓廿錢

◎火事は油断から……

時局重大の秋です、絶對火事を起さぬセロン劑を塗る事に致しませう

セロン防火劑東北發賣元  
東北セロン商會  
平町白銀町(電三九三)

月曜言論

雙傷少年と

學校の截斷

十六歳の警中一年生が父の愛を刺傷した事件は種々な意味に於て一つのセンセーションを巻き起した。

少年は家庭内に認識し能はざる一女性の存在する事に依つて常に父と母との間に葛藤の絶えぬ現實を悲しんだ、彼の純情は虐げらるゝ生みの母に絶大な同情となつて傾けらるゝと共に不明の一女性に對して禁じ得ない憤りを感じたのである、そして三角關係の一角を倒壊する事に依つて家庭の平和と圓滿を期し得るものと一圖に信じた、遂に彼れは呪ひの刃に憎惡の一念をこめて恐るべき血塗れ事件を惹起したのである。

彼れの行爲を是であると肯定は勿論出来ぬにしても何が彼れをして斯くあらしめたかを思ふ時、同情に價する幾多の事實が纏綿して居る事を知らねばならぬ、學校當局は哀れな此の一少年に如何なる截斷を下すか未だ考慮中の由であるが斯かる少年を校門の外に投げ出して、彼れの一生を棒に振らしむる事が教育の本旨に添ふゆゑであるとは考へられない、斯かる恵を

る家庭に、精神的なる痛苦を擔ふ少年に對して、學校は樂園として速やかに其の

町是の確立を期して

市制實現研究

各種調査委員を決定し

將來の方針成る

平町に於ける都市計劃の前提として町是の確立を期する爲め廿六日午後一時より町會議事室に町是調査會を開き伏見町長の指示せる既報諸案件に就いて慎重審議を遂げた結果

- △明年公會堂を建設すべく其の財源と設計を急速に決定すること
△人口膨張の方法として好間村川名子及び大館(戸數百卅戸)平窪村内鯨岡、大室、幕の内(同五十五戸)神谷村向鎌田(同六十戸)飯野村北白土(同十五戸)内郷村御臺境及び小島(同二百卅戸)を合併すべく交渉を開始すること
△南町其他の酌婦營業所を適當の地一廓に纏むること
△裁判所は高臺にて不便多き故刑務所と共に平地へ移轉すべく司法省に向つて運動を開始すること
△町營電氣の計劃及び物産々出の爲め産業開發を調査すること等であるが更に第二次の調査とし

門扉を開き、惱める小さき魂をかき抱き導いてくれている、眞に教育者の使命を

顯現し得るものではなからうか。

青年同志

支部設置活動

石城郡南の政友會別働隊として組織された菊多青年同志會は近く二町八ヶ村に支部を設置すべく活動を開始する由

聯合青年役員

聯合青年團にては此程警中に於て評議員會を開き副團長に大河原茂平氏當選し三森虎男氏と入り替りとなり縣代議員に神谷一郎氏當選した

長瀬氏母堂計

古鍛冶町長瀬廉平氏母堂コウ嬢は廿七日午後四時八十六歳の高齡を以つて寝るが如く逝去した葬儀は廿九日午後二時自宅出棺松堂院にて執行の筈

平町人事

△胡摩澤一五〇助川彌氏四男勇

△長橋町一小野唯雄氏長男幸一
△二丁目二四關内米太郎氏二女由子

回死

△田町六〇當時茨城縣多賀郡南中郡村三六四飯沼きち氏孫悦夫(一一)
△仲間町二八當時東京府下豊多摩郡杉並町字高圓寺麻生川善養(七九)
△仲間町一六吉兵衛氏妹大關昭子(一九)

藤沼醫院

平町 紺屋七番
電話 五七〇番

井坂醫院

平町 田町 香九五五番
電話 五五九番

募三勇士遺族の弔慰金

嗚呼忠勇無比の三勇士何ぞ其の壯烈なりしぞ鬼神も爲めに慟哭せむ、實に振古未會有驚天地の偉業にして人生を超越し洋の東西に冠絶す、古今英雄多しと雖も蓋し三勇士に如くものなからん宜なる哉其の心緒英雄以上の英雄なり、

今や同胞國を擧げて戦に赴かんとする誰か彼の三勇士に感激せざるものあらむ殊に目下外交は危機に瀕し東亞の風雲彌々急ならむとする秋、内は國民の士氣を鼓舞し外は國家の威武を宣揚する誠三勇士に負ふ處甚だ大なるを痛感するなり、

阿部政右衛門 常磐毎日新聞社

但し
一、弔慰金一人金拾錢均一に願ひます
二、右弔慰金は平町前丸ッ阿部石炭店又は常磐毎日新聞社に御届を乞ふ
三、寄附者芳名を常磐毎日新聞紙上に掲載領收書に代ふ

寄附者芳名 第十五回分

Table with columns for names and addresses. Includes names like 遠藤 淺香, 同 れん, 同 チイ子, 高田 敏藏, 同 マス, 吉田 啓助, 同 豊, 坂本 利勝, 荒木 晴久, 井上 茂作, 同 貞次郎, 同 明, 同 三丁目, 代表者大内昌吉, 酒井亥之治郎, 同 弘道, 同 徳室, 平松 明友, 平松 欽治, 石川 幸太郎, 山野邊東次郎, 植村 久恕, 片寄 友次, 志賀 與市, 五十嵐 政七

# 學界の權威

## 川原田博士來平

### テレビジョンの講演

平十三日會にては來月二日午後七時よりマルトモホールに早大教授工學博士川原田政太郎氏を迎え特別講演會を開く筈であるが川原田博士は本邦に於けるテレビジョンの研究者として世界に其の名を知られて居る學界の權威者で同博士の

## 幼女が轢かる

### 轢かる

石城郡湯本町入山第一坑國井明善の二女ミチ子(八)は廿七日正午頃三箇地内で遊戯中小名濱中野自動車部運轉手山内貞平(三)の運轉し來つた乗合自動車に足部を轢かれ全治七週間の傷を負ふた

## 人學試験執行

### 席缺 磐中九名 磐女七名 平商三名

### 昨日から一齊に

平町に於ける磐中磐女平商の入學試験は昨日午前九時より一齊に執行されたが先づ

(磐中)一時間目算術、二時間目國語、三時間目地歴、本日一時間目算術、二時間目國語、明日身体検査並に口答試験發表は三十一日正午、入學式四月五日午前九時

四月五日午前九時であるが因に當の欠席者は磐中九名、磐女七名、平商三名であつたと

## 詐欺鮮人

### 平署に檢舉

朝鮮人吳永順事吉川政夫(三)は松ヶ岡公園の行燈百四十個ベンチ百脚、アーチ二ヶ所のペンキ塗を請負つたから其仕事をさせてやると偽り平町仲町高野清から去る廿二日十圓、廿四日卅五圓を騙取した事發覺本日平署に檢舉された

## 女房殺し

### 犯人は平町に 全然關係なし

### 昨夜の警戒網

平町南町製麵業永倉正枝(三)妻マツ(五)と稱する男女連れが廿六日夜水戸驛前旅館森川屋に投宿廿七日午後二時頃正枝は妻を絞殺逃走せる事件に關し平署にては水戸署の照會に依つて昨夜旅館、料理店其他に警戒網を張つて捜査したが該當者なく結局男は西白河郡吉熊町吉小川生れ永倉忠義女は宮城縣桃生郡房又生れ茨

飯野青年總會 石城郡飯野村青年團にては四月三日午前十時から同村小學校に於て總會を開き川崎本社長の滿洲講演ある筈

## 自殺すると

### 遺書を殘し

### 幼女を連れて

### 若妻が平驛へ

廿八日午前二時四十分頃平驛に下車した子供連れの女形一郎(六)内縁の妻和泉靜

### 明日の天気

今夜は東雨  
風雨明日は東  
南風小雨模様

## 今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 武勇童話「泥々三勇士」江見水蔭
- 後六、三〇 趣味講演「鳴禽類の傳説と其の鳥笛」藤五代策
- 後八、〇〇 連續講談「渡邊五郎次、終席」一龍齋
- 後八、三〇 獨唱とピアノ

## 明日の部

- 前九、一〇 料理献立「ボクアラモード」朝倉長吉
- 前一〇、三〇 婦人講座

## 音樂・舞蹈・獨唱

### 詩南社の催し

### 平小唄や爆彈三勇士合奏

- 平町詩南社にては來月九日午後六時から平陽女學校に於て「音樂・舞蹈・獨唱の會」を開き
- 坂本見世二 酒井貢 仲野正男 橋秋夫 岩佐光明 酒井貞夫 森正男 梶山榮一 三村哲郎 長谷川かほる 今泉源龜 楠武 橋春三 鈴木正一

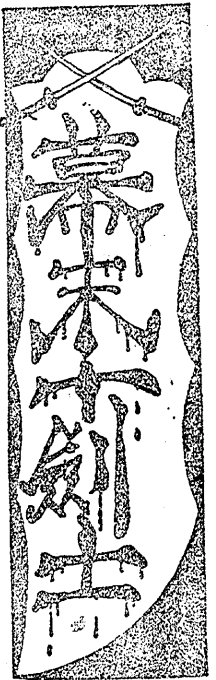
- △商店雑役 二十四才 高卒 給料面談(好間村某)
- △農夫 二十才以上五十才迄 月六七圓位 夫婦者可(三坂村某)
- △求職の部
- △商店雑役 二十四才 高卒 給料面談(好間村某)
- △産婦扱 三十四才 尋三半途給料面談(平田町某)
- △藥局生 二十二才 中學半退 給料面談(平鎌田町某)
- △洗濯業 二十八才 尋卒 給料面談(横濱市某)
- △小使 五十三才 尋卒 給料面談(平村木町某)
- △女中 二十三才 尋四修 給料面談(双葉郡大久保村某)

### 大塚の 學生靴!!!

耐久新製品  
編上靴 六・〇〇  
半靴 五・〇〇  
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を

大塚支店製靴部 電話七七番

上田外科醫院 平町南町 電話二一九番



【祭轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演  
近藤 紫雲 畫

〔第十二席〕

神影流の達人秋山要介

(12)

手切れの十兩

わ組の頭勝五郎は井口の店を出て青石横町の吟中の許へ来た、表の格子を排けて

勝「オイ、吟中」

呼ぶと出て来たは母親、

母「これは頭入らつしやい

まし、どうぞ此方へ」

勝「吟中は居るかナ」

母「二三日前から病氣でございまして臥して居りますよ」

勝「そいつは叶けねえな」

母「あの吟中や、黒門町の頭がお出なすつたよ」

吟「これはお出なさいまし大分二三日蒸しますナ」

勝「仕方がねえや、夏は暑いと決つてゐる、今頃綿入を着るやうでは安い米は喰へねえ、どうした風でも引いたか」

吟「頭痛がいたしましたねそれが爲に茲四五日井口様にも御無沙汰をして居ります」

勝「その井口さんの事に就いて来たが、オイ吟中、おめえは飛んだ事をしたナ」

吟「へえ飛んだ事とはどんな事をいたしました」

勝「とぼけるナ人を甘く見

るなイ」

吟「へえ別に貴下を甘く見

う思つたは俺の誤り、困る

ぢやアねえか、あんな事を

してくれては」

勝「何ともお詫びのいたし

やうもございませぬ」

勝「井口のお内儀さんが利

巧者で二人の間にいやらし

い事はあるまいが世間では

娘とぎん中とをかしい事が

あるなぞとこんな事を云つ

て居る、ぎん中も出世前の

大事な身、又娘も嫁に行く

身、厭な事もないのにそん

な風聞を立てられては是か

ら出世する身の邪魔になる

又想ひ合つて居るならば夫

婦にしても遣りたいが婿に

出来ぬものもあるではな

きやう悪さうにもちぢし



ては居りませぬ」  
勝「俺はおめえに井口のお嬢さんに一中節の出稽古に行つてくれとは頼んだが、悪戯をしてくれとは頼まねえ筈だ」  
云はれて吟中が差俯向いてきやう悪さうにもちぢし

う思つたは俺の誤り、困るぢやアねえか、あんな事をしてくれては」  
勝「何ともお詫びのいたしやうもございませぬ」  
勝「井口のお内儀さんが利巧者で二人の間にいやらしい事はあるまいが世間では娘とぎん中とをかしい事があるなぞとこんな事を云つて居る、ぎん中も出世前の大事な身、又娘も嫁に行く身、厭な事もないのにそんな風聞を立てられては是から出世する身の邪魔になる又想ひ合つて居るならば夫婦にしても遣りたいが婿に出来ぬものもあるではな

きやうにしてくれと俺にお頼みなすつた、困つたぜ、なア吟中、井口さんは俺の出入の店で、おめえを世話をしたは俺だ、それだから一層困つてしまつてしまつた他に女が無え譯でも無し、今までの事は夢を見たと思つて諦めてくんナ、そこでナ、十兩下さつた、お内儀さんの云ふには二人に厭らしい關係があるならばこれ

は手切れだが、怪しい事も無えから今まで吟中が通つて来てくれたその禮だと云つてくれた總て行届いた處置だ」  
吟「有難うございませぬ、然しお金を頂いては濟みませぬこれはお返し申します」  
勝「そんな事を云はねえで取つて置きねえ折角呉れたものだ」  
吟「然れそれでは義理が缺けます」  
勝「おめえ義理を知つてゐるか、義理を知つてゐる人間ならばお嬢さんに手を出すやうな事はなからう」  
吟「理窟を云はれては一言もございませぬ、然し頭私からお嬢さんに兎や角云つた譯ではございませぬ、先方から種々な事を申しまして觸れば落ちるといふ様子を

見せましてどうも此事が叶はねば死ぬなどと申しました、遂それでわたくしもフラ／＼と氣も迷ひ假りにも人の命に拘はるやうな事がございましては」  
勝「何を云つてやがるのろけを聞くつもりで出て来たンぢやア無え宜いか、是か

ら先お嬢さんに會つても口を利いてはいけねえよ、さア十兩は貰つて置きねえ」  
吟「いろ／＼御心配を掛けまして何とも濟みませぬ、念の爲め書附でも差出しませうか」  
勝「そんなものは要らねえ男が約束した以上判證文をしたより確なものだ、俺に熱湯を呑ませるやうな事はあるめえナ」  
吟「萬に一つもそんな事はございませぬ、元々わたくしはあの女に惚れてゐた譯ではございませぬ」  
勝「然うか大丈夫だらうナ」  
吟「大丈夫金の脇差憚りがならぎん中も男でございませぬ」

いかと憐れう云ふんだ、之はお内儀さんが云つた事だよ想ひ合つた仲ならば夫婦にしても遣りたいが、婿に出來ねえものもある、藝人は婿には出來ねえと云ふ事だ夫に親類から苦情が出たそこで吟中か出入をしねえ

先お嬢さんに會つても口を利いてはいけねえよ、さア十兩は貰つて置きねえ」  
吟「いろ／＼御心配を掛けまして何とも濟みませぬ、念の爲め書附でも差出しませうか」  
勝「そんなものは要らねえ男が約束した以上判證文をしたより確なものだ、俺に熱湯を呑ませるやうな事はあるめえナ」  
吟「萬に一つもそんな事はございませぬ、元々わたくしはあの女に惚れてゐた譯ではございませぬ」  
勝「然うか大丈夫だらうナ」  
吟「大丈夫金の脇差憚りがならぎん中も男でございませぬ」

先お嬢さんに會つても口を利いてはいけねえよ、さア十兩は貰つて置きねえ」  
吟「いろ／＼御心配を掛けまして何とも濟みませぬ、念の爲め書附でも差出しませうか」  
勝「そんなものは要らねえ男が約束した以上判證文をしたより確なものだ、俺に熱湯を呑ませるやうな事はあるめえナ」  
吟「萬に一つもそんな事はございませぬ、元々わたくしはあの女に惚れてゐた譯ではございませぬ」  
勝「然うか大丈夫だらうナ」  
吟「大丈夫金の脇差憚りがならぎん中も男でございませぬ」

先お嬢さんに會つても口を利いてはいけねえよ、さア十兩は貰つて置きねえ」  
吟「いろ／＼御心配を掛けまして何とも濟みませぬ、念の爲め書附でも差出しませうか」  
勝「そんなものは要らねえ男が約束した以上判證文をしたより確なものだ、俺に熱湯を呑ませるやうな事はあるめえナ」  
吟「萬に一つもそんな事はございませぬ、元々わたくしはあの女に惚れてゐた譯ではございませぬ」  
勝「然うか大丈夫だらうナ」  
吟「大丈夫金の脇差憚りがならぎん中も男でございませぬ」

先お嬢さんに會つても口を利いてはいけねえよ、さア十兩は貰つて置きねえ」  
吟「いろ／＼御心配を掛けまして何とも濟みませぬ、念の爲め書附でも差出しませうか」  
勝「そんなものは要らねえ男が約束した以上判證文をしたより確なものだ、俺に熱湯を呑ませるやうな事はあるめえナ」  
吟「萬に一つもそんな事はございませぬ、元々わたくしはあの女に惚れてゐた譯ではございませぬ」  
勝「然うか大丈夫だらうナ」  
吟「大丈夫金の脇差憚りがならぎん中も男でございませぬ」

**時は春!!!**

◎新入學生の通學に……

◎ゼヒ必要な時計を……

営業種目  
時計 眼鏡  
指輪 電燈  
其他貴金屬

**白寶堂時計店**

(へ向店服吳橋諸)町川新町平

**難波醫院**

平町新川町  
【釜屋新宅向】  
電話五〇二番

**皆三二!!!**

自動車は最新の三二二年型!!!  
車体番號は福島三二番!!!  
そして電話は三二番へ

此度皆様の御愛顧と御後援を仰ぎタクシー部をもうけました。處女營業の事として地方皆様の御愛顧を得て進みたく従業員はヘビーを盡してサーピスあるのみです。車は御氣に召す様にと三二年初春のトップを切つた最新型を整ひましたから是非お召し下さい。

一九三二車と車体番號に因み  
三二番の電話を御利用下さい  
平町白銀町 加藤丈夫營業所

**不二タクシー**

主任 菅本 昇

安い! 良い!

**御裁縫用具が**

澤山入荷致しました

田町 **ハシモトヤ糸店**

**東京十軒店久月の雛人形陳列**

お子様方が一年中で一番楽しみな桃のお節句が近づきました江戸の。檜舞臺日本橋の十軒店で永年御愛顧を受けて居ります弊店は今度初めて御當地へ参りました。是非一度御覽の榮を得たく御待申して居ります。今後永く御引立を頂き度くと存じますから値段と品質とで他店のまねの出來ぬ勉強を致します。

平町田町 (停車場前通り)  
平町マールケツト内  
東京日本橋十軒店  
**久月本店直營**  
電話平局六〇三番